

つくしだより



令和4年9月号

精神障害者と人権

都連 副会長 轡田 英夫

かつて日本医師会の会長を25年間務めた故武見太郎は「精神病院は「牧畜業者」だと述べました。

昨年の7月に報道された、NHKのETV特集「精神科病院×新型コロナナ」は大変な反響を呼びました。

この中で、一部の精神科病院の患者への酷い取り扱いの実態が明らかになりました。

X病院から搬送されてきた患者の中には、お尻の骨が壊死、床ずれが骨まで達していました。また、Y病院では、搬送されてきた患者は、おむつに、何日も変えていない便がどっさりといびりついていました。また、この病院では、畳の部屋に数人が布団を敷き、その真ん中にポータブルトイレを置き、全員がそこに排泄をするという状態でした。

このような病院はまだたくさんあり、極めて酷い人権問題だと言えましょう。

また、精神科病院には「拘束」の問題があります。

日本の身体拘束は、1998年から10年間で2倍となっています。ある調査では、日本の身体拘束の平均

日数は96日で、海外のせいぜい数十時間と比べると比較にならない長さです。

身体拘束の対象となるのは、精神保健福祉法に、(ア)自殺企図または自傷行為が著しく切迫している場合、(イ)多動または不穏が顕著である場合のほか、患者の生命に危険が及ぶ恐れがある場合となっています。むやみやたらと拘束して良いわけではありません。

ところで、なぜ拘束をするかというところ、身体拘束をしないと看護師が不安になるとか、反抗的な患者をおとなしくさせるためとかという管理的な都合です。しかし、都立松沢病院では、拘束をこの10年間に20%から2%まで減少させました。また、都道府県による拘束率の違いを見てみると、上位では埼玉県の9.94%、千葉県の8.50%、山形県の8.39%。一方下位では、岡山県の0.86%、和歌山県0.93%、香川県1.15%となぜか東日本では高く、西日本では低いというデータがあります。

これらの事が意味することは、拘束はほとんどやらなくても済むという事です。この拘束も、また極めて重大な人権問題です。

さらに精神科病院では、患者に対する暴行・虐待問題があります。

1983年4月に、宇都宮病院で、不満を漏らしたなどの理由で、患者二人が殴り殺されました。1993年、大阪府柏原市にある大和川病院で、患者が暴行を受け死亡するという事件が起きました。さらに同年には、神戸の神出病院で、準強制猥褻・暴行事件が発生しました。このような暴行事件は後を絶ちません。人を人としてみない重大な人権問題です。ではなぜこのような普通科病院では起きない人権問題が精神科病院においては発生するのでしょうか。

原因の一つに「精神科特例」があると言えましょう。普通科病院に比べ精神科病院は、医師は、1/3、看護師は2/3で良いという規定です。このため、少ない人数で多くの患者を診なければならぬ状態になります。また、一般病院に比べ平均給与が2〜4万安いとか、准看護師の比率が高く経験未熟な職員が多いという指摘もあります。

武見が、精神科病院経営者を「牧畜業者」と揶揄してから60年。精神科病院はどう変わったのでしょうか。「精神科特例」の廃止は急務の課題です。

大田区の要望行動

大田つばさ会 副代表 古怒田 幸子

令和5年度に向け7月下旬、つばさ会は大田区と各政党へ要望行動に取り組みました。引きこもり一つをとっても全国では115万人、15才〜39才は54万人、40才〜64才は61万人を超えていることは内閣府も認めています。これは当事者、家族にとっただけでなく、社会的損失ではないでしょうか。

かつては「子どものつまづきは親の育て方ではない」と言っていたはずなのに最近では耳にしません。実態として支援が進んでいるとは思えません。

コロナ下、要望行動には家族の参加は少なかったものの ①訪問支援、②福祉手当の支給対象の拡大（2級にも3000円）、③差別解消の更なる周知など、それぞれの現状を含め、精いっぱい訴えました。

例年がない政党の前向きな姿勢や、4月から新任の障害福祉課長は丁寧な耳を傾け、時間を超えての懇談会となりました。

イギリスのメリデンの取り組みやフィンランド、北欧、ヨーロッパでは、誤解や対立から「家族が話し合っって問題解決できる」ことを目指し、多職種の訪問体制を組み、数週間から1年を目途に支援の努力が続けられ

ているようです。巨体を誇った恐竜より人間の脳ははるかに大きいとか。それだけ繊細で豊かな感受性を持っているとも言え、傷つきやすくもあるのでしょうか。

「知られたくない」と自らの偏見を抱えこめば深刻な事態に至ることさえあります。わが家だけじゃない。家族会の交流と行動を通して、少しでも生きやすい家族と社会に。そんな思いを込めて要望に取り組みました。



都庁における障害者活躍推進計画

都連理事 江頭 由香

都庁では、「障害者の雇用の促進等に関する法律の改正」（令和元年）により、令和2年に「都庁における障害者活躍推進計画」を策定しました。策定にあたり、つくし会は、
・ 精神障害者は、障害の部分と病気の部分を合わせ持っていることを踏まえ、職場の理解を促進すること。

・ 障害特性は、人それぞれであるから、個別的な支援が重要である。

・ 就労の定着に向けて、障害や病気に配慮した取組を進めること。

という意見を提出しました。

計画は令和2年〜令和6年の5カ年にわたるものですが、7月に令和3年度の取組状況及び令和4年度の取組予定が都庁のHPに公開されたため、内容を紹介します。

取組事項は、

- ・ 雇用率、1年間の定着率、
- ・ 推進体制の整備 雇用推進者、推進会議
- ・ 職務環境整備

就労支援機器導入、相談体制整備・人材育成、理解促進 eラーニング研修

・ 職員採用・職場実習・キャリア形成支援
等ですが、特に精神障害者については、障害に対する職場理解の促進として、

・ 精神障害を有する新規採用職員が配属された職場において、精神保健相談員による相談、助言による職場定着、職場理解を促進

・ 精神・発達障害しごとサポーター養成講座など関係機関と連携した研修等により、障害特性、障害ごとの配慮事項等を学び、障害への理解を深化

することが、知事部局、人事委員会から交通局、水道局等まで幅広い部門において実施されており、つくし会が提出した意見に沿った計画が実践されています。

公開内容は、つくし会HPでも紹介しておりますのでご参照ください。

地域家族会紹介HPを作ります。

都連理事 江頭 由香

先の多摩ブロック会議にて地域家族会HP作成希望のご意見があったため、つくし日より5月号にて、調布市の市民活動支援センターによるボランティア団体の活動紹介HP支援事例を紹介しました。

しかし、こうしたHP支援サイトは限られており、また登録できるデータ量が少なく、紹介情報が限られます。つくし会HPでも、以前はHPを持たない家族会紹介ページがありました。現在はありません。

みんなねつとの都道府県連合会の紹介HPではWebサイトも紹介されているため他家族会の対応状況を調べたところ、「じんかれん・神家連（神奈川県精神保健福祉家族会連合会）」HPで県内の市町村の家族会の詳細情報が公開されていました。大変参考になる事例だったので、早速、神家連HP担当の方に相談し、地域家族会ページを作成された背景、これまでの経緯などを教えていただきました。

神家連HPでも、HP立ち上げ当初から地域家族会を一覧できるページはあったそうです。その後、より詳しく最寄りの家族会を知ってもらうために、傘下の家族会の多くがHPを持たず知らせる機会が少ないことへ

の対策として、各地域家族会を紹介するページを作ったそうです。つくし会の地域家族会が抱えている課題と同じだと思います。

そこで、神家連HPでは、家族会の紹介用フォーマットを作成し、各地域家族会が記入された内容をもとにHPを作成されたそうです。以降は、毎年の年度初めに見直し情報を集めて更新されているそうです。

紹介内容は、家族会名、沿革、活動内容、定例会、年度毎の活動予定、会員の声、連絡先などですが、5年間の間に、地域家族会の方より新たな掲載依頼ご意見があり、現在では、会報・定例会報告・催し物案内などの情報も掲載されるようになったそうです。また、地域家族会紹介ページを見て入会を希望される方も増えてきているそうです。

つくし会に参加されている地域家族会さんの中にはHPは持っていないけれども、充実した内容の会報を作られている会は多いと思います。地域の家族会を知らないご家族に知らせたい内容も多いと思います。つくし会HPでも、神家連HPの事例を参考に、会の紹介と共に会報・定例会報告、催し物案内などの情報も公開していきたいと考えております。

今後、各家族会の皆様に情報提供をお願いする予定です。よろしく願います。

寄稿 「ギター」の先生

都連理事 江頭 由香

私は音楽好きですが、演奏ではなく、聴くのが中心です。以前ピアノを習いましたが、数年で挫折しました。ポピュラー音楽が好きなので、ギターを弾いてみたい気持ちは持っていたのですが、挑戦することなく時間は過ぎました。しかし、音楽好きで楽器も演奏する当事者の弟と同居しているため、ギターと楽譜を毎日目にすることになり、とうとう練習を始めることにしました。教室に通った方が早く上達するかもしれませんが、マイペースで練習したいので、自宅練習を選びました。そこで弟に相談したところ、女性、子供でも扱いやすいミニギターの中古品を廉価で入手し、初心者でもわかりやすい練習本も準備してくれたので、生まれて初めてギターの練習を始めることができました。目の前で名曲を演奏されると、練習意欲もわきます。ギターの先生である弟によれば、短時間でも毎日継続的に練習することが大切ということなので、今後も少しずつ楽しく練習を続けたいと思います。



家族会交流コーナー【知っ得情報】

東京都美術館 障害者のための鑑賞会招待

「展覧会 岡本太郎」

開催日時 11月28日(月)10時～16時

申込期間 10月3日～10月24日

都美術館のホームページをご覧ください

問合せ先 特別鑑賞会担当 3823-6921

☆賛助会費☆(敬称略)

多摩病院 10000円

ありがとうございます。

☆寄付のお知らせ☆

松澤 勝様、匿名様、ありがとうございます。

東京つくし会では、ご寄付をお願いしております。寄付を下された方は本年度よりつくしだよりにお名前を掲載させていただきます。匿名希望の方はその旨お知らせください。

東京つくし会からのお知らせ

会員の皆様へ

本会長長眞壁博美は、家事都合により会長職を遂行できない場合があります。

その場合は、副会長の植松和光が代行を務めますことをご報告いたします。

東京つくし会理事会

☆講演会のお知らせ☆

○高等学校で教えるメンタルヘルス

日時 9月30日(金)午後2時～4時50分

講師 東海大学体育学部体育学科教授 森

良一氏、杏林大学医学部精神神経科

学教室助教 今村 弥生氏

会場 都立松沢病院2階大会議室 定員80名

主催 東京都精神保健福祉協議会事務局

☎03-3303-7211 申込不要 但し事務局の

ホームページで開催を確認のこと

○家族も協力ー精神障害のリハビリ

日時 10月8日(土)

講師 精神科医・大泉病院社会医療部長

山澤 涼子氏

会場 新宿区立障害者福祉センター

主催 新宿フレンズ ☎03-3987-9788

○精神障害者と社会の協調を求めて これ

からの人生、親も心豊かに生きられるように

講師 東洋大学教授 稲沢 公一氏

日時 10月28日(金)午後1時半～3時半

会場 高円寺障害者交流館1階 予約不要

主催 杉並家族会 ☎080-1004-1197

○「スマホってこんなに便利なの」

講師 シュロの会副会長 側島 康博氏

日時 11月4日(金)午後2時～4時

会場 東京都障害者福祉会館A1会議室

主催 東京つくし会 ☎03-3304-1108

編集後記

立山への小旅行の思い出

この夏、立山に行ってきました。立山は二回目でした。最初に行ったときは現役時代。その時は、長野県の扇沢からでしたが今回は、その逆で富山からの旅となりました。残雪の残る大日岳、雄山を目前に眺め以前とはまた違う感動を受けました。みくりが池に映り込む立山連峰の山並みにしばし呆然でした。

標高二千五百メートルの弥陀ヶ原湿原では、宿からの富山湾を見下ろす夕焼けを日が落ちるまで見とれてしまいました。夜は、真っ暗な湿原からの星空観察。今にも降り落ちそうな星に、改めて大自然の雄大さに心を打たれました。

弥陀ヶ原湿原は数多くの池塘からなっており尾瀬ヶ原湿原と似ていると思いました。タテヤマアザミなどの固有種やニッコウキスゲ、ミヤマキンバイ、ウメバチソウなどが咲き誇っていました。しかし中でも湿原一帯に咲いていたミヤマチングルマの群生は見事でした。この花は、梅の花のようでとてもかわいい花でした。

やはり、自然はいいですね。もうこれが最後かなと思いつきました。

私は、日本の自然が好きですね。皆さんも自然を求めてみては。都連副会長 植松和光

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。